

令和3年2月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和3年2月17日（水）13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞、読売新聞、毎日新聞、河北新報、
置賜日報、NHK、YBC、SAY

<市> 市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 先月の県知事選で市長が支援した候補者が大敗しましたが、どのように受け止めていますか。また、県と米沢市の連携について、どうお考えですか。「改善策が必要」とお考えでしょうか。
- (2) 旧大沼米沢店の跡地利用計画がまとまりました。この計画について、どのようにお考えですか。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和3年2月の定例記者会見を開催させていただきます。初めに、市長から発言がございます。

○市長

はい。2月の定例記者会見のご質問は2件でございました。

まず第1点目の、「先月の県知事選で市長が支援した候補者が大敗しましたが、どのように受け止めていますか。」という質問であります。県民の判断が現職の圧倒的な支持につながったと、このように受け止めております。コロナ禍で、新人にとっては大変厳しい選挙戦であったのかなと、そういったことが影響の一端としてあったかなと思っております。

また、「県と米沢市の連携について、どうお考えですか。」という質問もありました。この件につきましては、これは記者会見でも申し上げましたように、筋を通させていただくと。政策的なことではどうこうということではなくて、今までの私の選挙関係で支援していただいたことに対しての筋を通すということでありました。連携であります。これは今後とも、米沢市の発展が山形県の発展につながっていくように、また山形県の発展が米沢市の発展にもつながっていくように、そこはしっかりと連携をとっていかなければならないものと、従来どおりの対応には変わりないと思っております。

2点目は「旧大沼米沢店の跡地利用計画がまとまりました。この計画について、ど

のようにお考えですか。」というご質問でした。大沼が完全に撤退して1年以上経つわけであり、所有者の方と色々お話する機会もございまして、この度新たな所有者において新たな利用計画が出たということです。以前から耐震の問題等も言われておりましたので、補強、対策をして今の建物を利用するのか、あるいは解体をしてその後の土地利用をするのかということが課題でした。今のところはっきりとお聞きはしておりませんが、計画としては解体をして新たなドラッグストアとスポーツジムのようなものを建設したいというようにお伺いをしているところであります。

いずれにしても、市街地の再開発、土地利用について一定の方向が示されたので、これからの賑わいづくりにおいても安堵しているところであります。こういったものを契機に、行政としてできることについてはしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上となります。これ以降の進行につきましては幹事社にお渡しをいたしますので、よろしくお願ひいたします。

○幹事社

よろしくお願ひします。最初の質問で、県との連携なのですが、他の市町村の中には、なかなか連携がうまくいっていない、県の方となかなか面会させてもらえないとおっしゃっている首長さんもいらっしゃるのですが、市長はそういった意味でこれまでの米沢市と山形県の間をどのように受け止めていらっしゃいますか。

○市長

私はごく普通に思っておりました。先ほど言いましたように、山形県の35市町村の1つの自治体として、米沢市の発展が県勢の発展にもつながっていくものということで、そこはしっかりと県と連携をとっていくという部分が当然あるわけであり、そこは今日までしっかりと連携を取らせていただいていたと私は理解をしております。

○記者

市長ご自身と吉村知事との関係について、どのような知事であり、どのようなところで合致される相手であると捉えていらっしゃいますか。

○市長

どのような知事といわれても、どう答えて良いものかというところではありますが、今まで県議時代も吉村知事とはお付き合いをさせていただいてきました。正直言って今回の勝敗にも繋がったのかなと思ってはおりますが、如才ない方であられるのかなど。その程度にとどめさせていただきたいと思っております。

○記者

知事選の時には、新人の応援の時に厳しい言葉もあったかと思っております。

○市長

どういう言葉だったでしょうか。

○記者

「コロナの関係の病院の支援で、連携があまりとれなかった」というところなどです。

○市長

はい。それは言いました。

○記者

それも含めて、県に対して期待するところというか、どういうところで更に連携を

深めなくてはいけないと感じていますか。

○市長

病院の件については、コロナ禍のなかで米沢市立病院が軽症者を受け入れたという経過がございました。そのことで、非常に経営的に厳しくなったという部分がありまして、そういった部分で感染指定病院ではない公立病院が県内でも他にもありまして、色々お話をしまして、やはりこういった要因が経営難につながっているということもあったから、そこはお互い連携しながら県に支援を求めていこうということで話をさせていただきました。

県の懇談会の時も、このことについては県に申し上げてきたつもりです。そしてこれは県だけでなく国の財政支援ということもありましたので、東北市長会で、こういった支援についてもお願いをするということだったのですが、基本的にそういった支援についてはいまだに実現されていないということもありました。

そういったことを考えて、今後はお互いに地方の実態、それぞれ市・町・村の実態というものを県との連携の中でかかわってきたものについては何らかの財政支援も含めてもっとしっかりとした地方の実情というものを理解をしていただいて、対応していただければありがたいなと思います。

○記者

そうするとやはり、今よりもっと良い関係を築いていかなければという課題意識をお持ちでいらっしゃるということですか。

○市長

これは当然だと思います。昨日も、ご承知のとおり13市の市長会が山形市でありまして、知事もお見えになってご挨拶しました。市長会の会長さんから、知事選挙のしこりとかそういったものについては、最上川に例えて海の奥深くに埋めてしまおうというお話もあり、それを受けて知事も「選挙は選挙。今後コロナの問題、ワクチンの問題もあるので、今後どのように連携をしていくかということについては、しっかりとお互いに胸襟を開きながら、話し合いをしながらやっていこう」というようなお話がありました。我々としてもそのように努めていきたいと思っています。

○記者

今の病院の関連で、市長は会見で度々、「昨年コロナの軽症者を市立病院で受け入れた」ということは明言してこられました。それに伴って経営的にも厳しくなったが、それに対する支援は結局受けられなかったという話を今なされていたのだと思うのですが、今後の要望について、減収に伴う対策を国や県に対してどのように要望していこうとお考えですか。

○市長

これは先ほど申し上げましたように、既に東北市長会で取り上げて、国に要望している事項でもあります。今後、市立病院でまた軽症者を受け入れるということもあるかもしれません。そういった場合の支援とか、国からの公立的な病院への支援についても同じことだと思いますので、そういう状況が出てきましたら、もっとしっかりと陳情要望していく必要があると考えております。

○記者

昨日発表した県の予算にも、あるいは補正にも支援は含まれていないという認識でよろしいですか。

○市長

詳細は見ておりませんので、詳しくはわかりません。

○記者

もう1点、大沼の件に関連して、「安堵している」とおっしゃいましたが、一方の一角が整備されると、ポポロの跡地はどうなるのかなということ併せて皆さん気にされると思いますが、開発にあたっている産廃業者さんや、その土地についても話があれば何か考えたいということはおっしゃっておられました。市長としてポポロ跡地について今後どのようにお考えですか。

○市長

まだ正式に大沼の跡地利用計画についても、具体的にどういふところまでは私も承知しておりません。どのような形態になっていくのかということも踏まえて、当然今度は米沢市として整備する部分も必要なか必要ではないのか、今後の中心市街地の土地利用を考えた場合に、例えば一方通行解除という話もあります。そういったことへの対応が今後米沢市として必要になってくるのかどうか、その辺も話し合いをしながら、そしてポポロの所有者の方々ともそういったことを含めてこれからの土地利用をどのように進めていったらいいのか、お考えがあればお聞きをして対応を進めていかなければならないと思います。

○記者

時系列の確認ではあるのですが、閉店となって以降、市として土地・建物の取得の検討はされたのでしょうか。そしてされたのであれば、見送った理由は何だったのでしょうか。整理したいので教えていただきたいです。

○市長

私自身の記憶では、土地を取得したりするという考え方はありませんでした。

○記者

それ自体は民間で何とかできるのではという考え方だったのでしょうか。

○市長

結局、その前の段階でコロナの問題がございました。あそこを公園にという話も実は米沢市から所有者にしていた経過もあったのですが、周辺には新たに公園整備もしましたし、果たしてそのことが中心市街地の活性化につながっていくかということにおいては、非常に難しい部分があるのではないかと。できれば所有者の方が何らかの民間活力で対応していただければありがたいという話を所有者の方にした経過もございましたので、大沼についても全く同じ考えであったと思っております。

○記者

今のお話ですと今回は土地利用について報道で知ったという段階なのかもしれませんが、その民間活力という点で市はどういう支援が考え得ると今お考えですか。

○市長

それも今後、開発をする方との協議にも入らないとならないと思います。担当課では具体的に進めているのかどうかであります。問題は先ほど申し上げましたように、あそこは一方通行になっておりますので、そこは地域の皆様からも「一方通行だと不便だ」という声もありました。そういったことについて今後どのように米沢市として対応していくかということがこれからの大きな課題になってくるのではないかと思っております。その辺は開発される業者の皆さんとしっかり連携しながら進めていきたいと思っております。

○記者

今月上旬に色々動きがありました市営プールの飛び込みプールに関連して、署名が

あって方針撤回という流れになりましたが、そのあたりの経緯について受け止めはいかがでしょうか。

○市長

維持をしていくという方向を担当は示したようであります。よかったなと思っております。平成4年の第47回夏季国体のメイン会場の県内では唯一の飛び込みプールですので、県にも働きかけて何とか改修費についてご協力、ご支援いただきたいという県議を通しての話もさせていただいて、何とかそういう格好になったということで、大変うれしく思っておりますし、ほっとしているというのが現状です。

○記者

今後は利用者を増やしていくことを検討するということですか。

○市長

1番はやはりそこだと思えます。やはり今後行政として色々な公共施設の管理計画を立てながら、人口減少社会にあってそこは個別計画を立てながらどうあるべきかを進めていきなさいという県からの方向性もありますので、やはり利用している公共施設については、今後とも維持をしていかなければならない。ただ、どんどん利用者がいなくなれば、やはり今後どのように減らしていくかということもこれからの行政にとって大きな課題になりますので、多くの皆さんにご利用いただきたい。ただ飛び込みプールですので、普通のプールとは違いますので、しっかりとした指導者の下で練習するということが重要なのかなと思えます。

○記者

最近アルカディアにあるリーガルの子会社が撤退を発表されました。工業団地で撤退になるのは珍しいのか初めてなのかという状況のようですが、市長としてアルカディアの工場が1つ撤退することへの所感をお願いします。

○市長

これもやはり残念だなと思えました。そしてこれもコロナの影響が相当にあったとお聞きをしております。やはり今、コロナでテレワークとか在宅勤務というものが増えてきている中で、リーガルにも影響が出たのかなと。そういった面で撤退されるというのは非常に残念だなと思っております。

○記者

今のリーガルの件に関連してお伺いしたいのですが、市長としてはいつ頃アルカディアの撤退は決められたのでしょうか。

○市長

先週末だったでしょうか。そんなところだと思っております。

○記者

今回の米沢市ではリーガルが、長井市ではニコンの子会社が撤退しましたが、県内の大手メーカーの子会社が続々と縮小だったり撤退だったりという動きが続いている中で、県内でも有数の工業団地を持っている米沢市としては、今後行政としてどういう対応をしていかなければならないとお考えでしょうか。主観をお伺いしたいです。

○市長

企業の撤退、あるいは閉鎖については行政でどこまで対応できるのか、難しい面があると考えております。ただ言えることは、やはり影響している部分については、すべてがすべてとは言いませんが、やはりコロナの影響が相当大きいのではないかと。それによって、消費者の消費行動も変わってきているということも言えると思えます。何よりも重要なことは、1日も早く新型コロナウイルス感染症が終息することが1番

の経済復興に対する大きな要因であろうと思っております。これからワクチン接種もあるわけではありますが、全力を挙げてコロナ対策に取り組んでいきたいと思っております。

○記者

ありがとうございます。

○秘書広報課長

これを持ちまして、令和3年2月の定例記者会見を終了させていただきます。

○市長

ありがとうございました。